

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成23年2月3日 (2011.2.3)

【公開番号】特開2008-290447(P2008-290447A)

【公開日】平成20年12月4日 (2008.12.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-048

【出願番号】特願2008-109544(P2008-109544)

【国際特許分類】

B 4 1 J 2/44 (2006.01)

G 0 2 B 26/10 (2006.01)

H 0 4 N 1/113 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 3/00 M

G 0 2 B 26/10 B

G 0 2 B 26/10 A

H 0 4 N 1/04 1 0 4 A

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月9日 (2010.12.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基準クロックを出力する基準クロック出力手段と、設定された逡倍数に基づき前記出力された基準クロックを分周し、当該分周により画像クロックを生成する画像クロック生成手段と、レーザビームによる光走査開始タイミングの同期を取るための同期信号を検出する検出手段と、前記検出手段により検出された同期信号と、前記画像クロック生成手段により生成された画像クロックとに基づきレーザビームの照射を行なう画像形成装置であって、

前記検出手段により検出された同期信号の立ち上がりから立下りまでの幅を検出する幅検出手段と、

前記幅検出手段により検出された前記同期信号の幅に基づき、前記逡倍数を補正する補正手段と、

を有することを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】

前記幅検出手段の検出結果に基づき、前記レーザビームの走査速度の変動を演算する演算手段を更に有し、

前記補正手段は、前記演算手段により求められた前記レーザビームの走査速度の変動に基づき、前記逡倍数を補正することを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】

前記同期信号を入力する同期信号入力手段を更に有し、

前記基準クロック出力手段は、前記同期信号入力手段に同期信号が入力されたことに応じて、前記基準クロックを出力することを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 4】

前記幅検出手段は、前記同期信号の立ち上がりから立下りまでの幅を、当該同期信号の立ち上がりから立下りまでの間に含まれる前記基準クロックの数により求めることを特徴

とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

上記の目的を達成する本発明に係る画像形成装置は、

基準クロックを出力する基準クロック出力手段と、設定された逡倍数に基づき前記出力された基準クロックを分周し、当該分周により画像クロックを生成する画像クロック生成手段と、レーザビームによる光走査開始タイミングの同期を取るための同期信号を検出する検出手段と前記検出手段により検出された同期信号と、前記画像クロック生成手段により生成された画像クロックとに基づきレーザビームの照射を行なう画像形成装置であって、

前記検出手段により検出された同期信号の立ち上がりから立下りまでの幅を検出する幅検出手段と、

前記幅検出手段により検出された前記同期信号の幅に基づき、前記逡倍数を補正する補正手段と、

を有することを特徴とする。